



火山の噴火と、地震のどちらがおそろしいの

兵庫県南部地震で、たくさんの被害が出た

1995年1月17日に起こった、兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)は、非常におそろしい地震で、今でも忘れることはできません。地震による被害は、死者6425人、行くえ不明者2人、負傷者4万人以上(1996年12月26日現在)、それに25万以上の家屋などがこわれたり、焼けたりしました。

長崎県の雲仙普賢岳は、1991年5月ごろから、ひんぱんに、噴火による火砕流が流れて、死者・行くえ不明者が44人になりました。亡くなった人は、多くありませんが、たくさんの家が土砂でうまり、人が住めなくなった土地も、たくさんあります。

どちらもおそろしい

兵庫県南部地震と、雲仙普賢岳の噴火による、死者の数だけを比べてみると、地震による死者の数が、はるかに多いので、地震のほうがおそろしい、と思いがちです。しかし、火山の噴火も、たいへんおそろしいものです。

この雲仙普賢岳は、約200年前にも噴火しています。このときは、噴火にともなう地震で、山くずれが起こり、土砂が海に流れこんで、大きな津波が起こりました。この津波で、約1万5000人が亡くなりました。

1985年、南アメリカのコロンビアで、ネバド・デル・ルイス火山が噴火しました。このときには、噴火が万年雪をとがして、泥流(どろが川のように流れる)が起こり、アルメロという町をのみこみ、約2万2000人が亡くなっています。

このようなわけで、火山の噴火も地震も、どちらもおそろしいのです。

(監修・国司 真)

